

令和3年11月1日に思う

次のような言葉を引用したい心境であります。

論語より孔子の言葉です。

『学んで時に之を習う、亦（ま）た説（よろこ）ばしからずや。

朋（とも）あり、遠方より来たる、亦た楽しからずや』

先月の中旬、何とも懐かしく愉快地に学ぶ時間を過ごすことが出来ました。

「川上サミット」や水源地の村づくりの生みの親とも言える長野県川上村の藤原忠彦前村長（8期。全国町村会長を7年4か月）と同氏と親交の深かった更谷慈禧前十津川村長が、そろってわが川上村にお越しいただきました。ここで、藤原前村長が職員や財団職員を前に講演された深みのあるお話の一部を紹介します。

“「内発力が地域を変える」そのためにも、人づくり。その原点は「たましい」すなわち心があって一人の人間としての生命がある。体は心の入れ物。そして挑戦！逆境が人をつくり、人が人を支え、挑戦が人をたくましくする。さらに、常にロマンと夢をもつこと。大きな夢がとてつもない凄い努力を生み出す、

多くの学びをいただきました。また翌日は、上社に参拝したあと源流館の活動を。さらには、かわかみらいふの取り組みを視察され、粉尾の吉野杉や匠の聚を見学されました。お二人は、口をそろえて「まさに自然と人が共生しており、どのスタッフもみんなイキイキと前を見ている」と町村振興の立役者と言っていい人より絶賛のお声をいただきました。

時として学びをおさらいし、友との再会をより確かなものにした二日間であったと思います。